電波からつながるさまざまなもの

人と人、まちとまち。はっとエフエムは76.7MHzを通して多くのものをつなぎ続けています。
開局当初からスタッフとしてはっとエフエムを支える佐藤万里子さんと当時を振り返ります。

地域の優しさに育ててもらったラジオ

登米コミュニティエフエム
企画制作部チーフディレクター
「あさとめ」担当（月～金曜日、7:00－9:00）
佐藤 万里子（まりこ）さん

地域に密着したコミュニティ放送

開局から10年を迎えたコミュニティ放送「登米コミュニティエフエム（通称・はっとエフエム）」。

コミュニティ放送とは、1992年に制度化された超短波放送（FM）用の周波数を使用する市町村などの限られたエリアを放送対象にしたラジオ放送です。限られたエリアで放送するため、地域に特化した情報が発信されることがコミュニティ放送の特徴。はっとエフエムでも、行政情報や文化・生活情報など、地域に密着した情報を日々発信しています。

また、台風や地震などの災害時には、避難場所や被害状況などをリアルタイムで知らせる役割も担っています。

はっとエフエムを聞いたことがある人の割合を示す聴取率では、93％の人が「聞いたことがある」と回答（2019年時点）。

その中でも、「毎日聞く」と回答した人は27・3％、「平日のみ聞く」と回答した人が17・2％、「土日のみ聞く」と回答した人は2・7％と、5割近い人が日常的にはっとエフエムを聞いています。

寄せられたメッセージに支えられて

10年前、開局を迎えるにあたり、「全国はっとフェスティバル」や「登米市産業フェスティバル」、「県総合防災訓練」、「三陸縦貫自動車道登米東和インターチェンジ開通式」などで模擬放送を重ね、経験を積みました。登米コミュニティエフエムチーフディレクターの佐藤万里子（まりこ）さんは「当時は、スタッフの中にもラジオに詳しい人がほとんどいなくて、何が分からないのかも分からない状態。申請書類一つ作るにも四苦八苦でした」と当時を振り返ります。

2010年4月4日、佐沼一市通りに建てられた本社兼スタジオで、はっとエフエムの放送がスタート。「開局直後は、リスナーの皆さんからいただいたメッセージでいろいろと学ばせてもらいました。はっとエフエムは地域の優しさに支えられ、育ててもらったラジオなんです」と支えてくれた皆さんへ感謝の言葉を口にします。スタッフだけでなく、みんなで支え、聞く人の優しさによって今のはっとエフエムがつくられています。

開局に向け、各種イベントで試験放送を重ねるスタッフの皆さん。

合併したまちの気持ちを一つに

「はっとエフエムの開局には大きく二つの思いが込められているんです」と話す佐藤さん。一つは当時、近い将来必ず来ると言われていた大きな地震に備えるための情報発信力の向上。そしてもう一つは、合併して5年を経過し、市民ひとりひとりが、登米市民として一体感を持って過ごしていけるようになること。中田町のイベントを米山町に住んでいる人が知ることができるように。登米町にどんな人がいるのかを迫町の人に知ってもらえるように。まちとまちのつながりを活性化させることで、一体感を生み出したい。合併した九つのまちを一つにという思いが開局に結び付きました。

11年3月の東日本大震災後、市内に6つの中継局が整備され、今では市内のどこでもはっとエフエムを聞くことができます。ラジオを通して同じ情報をみんなで共有することができる。はっとエフエムは、地域と地域、人と人をつなぐ役割を担っています。

「H@!FM」に込められた願い

はっとエフエムの表記「H@!FM」は、「HAPPY（幸せ）」の頭文字と、場所や位置を表す記号「@」、発見を意味する記号「!」を組み合わせて作られています。「幸せはあなたのはっとするそばにある」―。地元の良さに気づくことで、幸せを見つけてほしいという願いが込められ、「H@!FM」と名付けられました。

市の情報をタイムリーに受信
ー緊急告知ラジオー

市では、市内の家庭や設置を希望する事業所に1台ずつ緊急告知ラジオを無償貸与しています。

コンセントをつないでおくことで、緊急時にはラジオが自動的に起動し、緊急情報を放送。普段ははっとエフエムの放送を楽しむことができます。災害時以外にも、市内のイベントや地域の情報を知ることができるので、ご活用ください。

Interview

生放送が多く市民に寄り添った局として評価

東北コミュニティ放送協議会
玉井 恒（わたる）会長

コミュニティ放送は、放送エリアを限定した地域密着型の放送局です。2020年8月現在、東北6県では42局が開局。宮城県内には12局のコミュニティ放送局が存在しています。

はっとエフエムは市民目線の番組やイベント制作など、地域へきめ細やかに情報を発信し、ラジオを通じて人と人をつなぐ役割を果たしています。生放送が多く、災害を含めたどんな状況にもすぐに対応できるところもはっとエフエムの特徴です。東日本大震災の一週間後に訪問したはっとエフエムで目にした、隣の家が倒れ掛かり、車が押しつぶされ、スタジオの窓ガラスが割れた状態でも、災害情報を発信し続けていたスタッフの姿は忘れられません。

今後もほかのコミュニティ放送局の先進事例になるような取り組みを期待しています。

Listener Interview

災害時、ラジオの大切さを目の当たりに

迫町・江合
遠藤 真理子（まりこ）さん

はっとエフエムは、毎日、車や仕事の合間に聞いています。忙しい時でも、音声で市の情報が得られ、助かっています。リクエストした曲が流れる瞬間はとてもうれしく、多いときは1日に3回くらいメッセージを投稿したこともありました。

震災の時に、登米市で働いていた親と連絡が取れなくなった南三陸町の高校生を預かったことがありました。その子の情報をはっとエフエムで放送してもらい、避難所で聞いていた親と無事に再会。コミュニティ放送の存在の大きさを目の当たりにしました。今後もためになる情報の発信を期待しています。

Listener Interview

行政、地域イベント情報をラジオから

中田町・町
小野寺 浩（ひろし）さん

自動車整備会社を営んでおり、作業中にはっとエフエムを聞いています。

仕事中でも、行政からのお知らせや地域のイベント情報を耳で知ることができ、助かっています。仕事の予約状況が天気によって変わることがあるので、はっとエフエムから流れる詳しい天気情報が役立ちますね。

私自身も出演したことがある「Saturday Nova!」は、市内にどんな人がいるか知ることができ、よく聞いています。これからも馴染みあるパーソナリティの皆さんが発信する市内のさまざまな情報に、耳を傾け続けたいと思います。